

プレスリリース No. 08/02

即時発表用

2008年6月20日

メディア問い合わせ先

media@iwg-swf.org

政府系投資ファンドに関する国際ワーキンググループが 7月9日～10日にシンガポールで会合を開催

政府系投資ファンドに関する国際ワーキンググループ (IWG) の共同議長は本日、IWG が 2008 年 7 月 9 日～10 日にシンガポールで第 2 回作業部会を開催し、政府系投資ファンドの「一般に認められた行動規範・慣行 (GAPP)」に関する協議を続けると発表した。

アブダビ財務庁次官兼アブダビ投資庁理事のハマド・アル・スウェイディ氏と国際通貨基金 (IMF) の顧問兼通貨資本市場局長のハイメ・カルアナ氏によると、IWG に参加する 23 カ国はこのシンガポール会合で、2008 年 5 月 1 日の IWG 創設以来取り組んできた作業を推進していく意向である。また、投資受け入れ国数カ国の政府高官グループとの意見交換も行われる予定である。

「今回は IWG のすべての参加国とオブザーバーが出席する作業部会になる」と両氏は述べた。「我々は自主的行動規範や慣行を 2008 年 10 月までに構築するという目標の実現に向けた取り組みを続けている。これまでのところ、作業の見通しは明るい。IWG の継続的な作業を公表するという従来の慣行に従い、シンガポール会合の終了後に短い声明を発表する見込みである」と語った。

GAPP の目的は、政府系投資ファンドの制度的な枠組み、ガバナンス、投資業務への理解を深め、オープンで安定した投資環境の維持を促すことにある。

IWG は、国境を越えた投資の自由な流れとオープンで安定した金融システムの維持を後押しするために、参加国が共通の自主的行動規範・慣行について合意することを目的として創設された。参加国はオーストラリア、アゼルバイジャン、バーレーン、ボツワナ、カナダ、チリ、中国、赤道ギニア、イラン、アイルランド、韓国、クウェート、リビア、メキシコ、ニュージーランド、ノルウェー、カタール、ロシア、シンガポール、東ティモール、トリニダード・トバゴ、アラブ首長国連邦、米国である。サウジアラビア、ベトナム、経済協力開発機構、世界銀行が恒久オブザーバーとして参加している。

追加情報については<http://www.iwg-swf.org/index.htm> を参照。